



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

2006年10月3日
MR/J 36/06

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: http://www.unu.edu/

国連大学ゼロエミッションフォーラム(国連大学ZEF)
ゼロエミッションシンポジウム2006
「サステナビリティを考える」
10月20日(金)

内容： 国連大学ゼロエミッションフォーラム (国連大学 ZEF)
ゼロエミッションシンポジウム 2006
日時： 2006年10月20日(金) 9:30~17:45
場所： UNハウス3階 ウ・タント国際会議場 (東京)
主催： 国連大学、国連大学ゼロエミッションフォーラム
共催： 日本学術振興会ゼロエミッション第168委員会
豊橋技術科学大学21COE「未来社会の生態恒常性工学」
後援： 経済産業省、環境省、日本放送協会(NHK)、アメリカ大使館、日本経済新聞社、
日経エコロジー、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社(順不同)

背景：

- サステナビリティ(持続可能性)とは、過去、現代、未来を生きるすべての人類世代が豊かな地球の恵みを継続して、公正、公平に享受できる地球を目指す、という意味が含まれており、現在、有限である地球と折り合って生きて行くための新しい概念をあらわすキーワードとして注目されている。
- サステナビリティを達成するためには、1.有限な地球の認識、2.生態系の完全な保全、3.未来世代への利益配慮などが必要条件となる。
- サステナブルな社会を構築するためには、新しい哲学、理念、行動様式が求められている。

イベント情報：

- 基調講演者：「裏切られた発展 進歩の終わり」と未来への共進化ビジョン」の筆者でもある、リチャード B. ノーガード カリフォルニア大学教授。講演タイトルは” Finding Hope in the Millennium Ecosystem Assessment” (「ミレニアムエコシステムアセスメントに希望を見出す」)。
- その他講演者：山本良一東京大学教授、大橋照枝麗澤大学教授、三橋規宏千葉商科大学教授、堀内行蔵法政大学教授、植田和弘京都大学大学院教授、ジャスティン・キッツ氏(グローバルフットプリントネットワーク)、和田喜彦同志社大学助教授。
- 当日プログラム：
[http://www.unu.edu/zef/event%20files/Symposium%202006%20Programme%20\(Japanese\).pdf](http://www.unu.edu/zef/event%20files/Symposium%202006%20Programme%20(Japanese).pdf)
- 問い合わせ先：事務局 (shimizu@hq.unu.edu) または fax (03-3499-2878)まで。
- 本フォーラム開催言語：同時通訳あり

取材をご希望の方は、お席をご用意させていただきますので、国連大学広報部、担当：谷野(やの)
(TEL:03-5467-1311、; e-mail: media@unu.edu) までご連絡下さい。

PUBLIC ANNOUNCEMENT